



9月号

ひだまり

今月のエッセー

線香花火



夏は季節を感じる出来事がたくさんある。花火大会、お盆、海水浴、浴衣、夏祭り、西瓜など…、数え始めればキリがない。それほど夏は季節に満ちている。蝉の鳴き声や風鈴の音、鼻をくすぐる蚊取り線香の香りに空高く伸びる入道雲、茹だるような暑ささえ夏という季節を彩るためにあるように思えてくる。

そんな夏を感じるものとして花火がある。花火と聞くと、夏の夜空に満開に広がる打上花火を思い浮かべるだろうか。それともお店で買って、皆で楽しめる玩具花火を思い浮かべるだろうか。

私は花火と聞くと線香花火を思い浮か

ぶったにゃんの

ひだまり仏教クイズ



問題

次のうち、日本で生まれた仏教行事はどれでしょう？

- ①お彼岸
- ②お盆
- ③花まつり

七月号の答え ①番「こだわりをなくすため」

仏教の修行とは、煩惱をなくしていくことでもあります。私達の髪の毛でさえその例外ではありません。しかし、髪の毛自体が『煩惱』というわけではありません。髪の毛にこだわってしまう私達の心に煩惱があるのです。

私も学生時代の頃、女の子に好かれようと髪型を気にしていた時期がありました。「髪型をカッコよくすればモテる」と勘違いしていたのです。しかし、髪型をいくら整えようと、中身が整っていない方がいい男と言えませんよね？自身の中のこだわりを見つめ直すことで、本当に大切なことを見つけしていく。剃髪という行為の奥には、自分と向き合う修行があるのです。

編集後記



毎日暑い日が続いていますが、皆さん元氣にお過ごしでしょうか。

先月のお盆の時に、福島の叔父のお寺にお手伝いに行ってきました。その時、丁度その地域で夏祭りがあり、中学一年生の私の従妹が太鼓を叩くというので、見に行きました。友達と楽しそうに太鼓を叩いている従妹の姿を見て、私が小学六年生の時に地元の盆踊りで太鼓を叩いていた時のことを思い出したのです。

子供の頃の楽しかった思い出は、いつまでも記憶に残っているものだと感じました。皆さんはどんな時に子供の頃のことを思い出しますか。

◆國生徹雄

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

べる。今でも年に一度は必ず家族や友達と線香花火をしている。誰かとしみじみ楽しむ線香花火をしないと夏を迎えたという気になれないからだ。子どもの頃から友達や家族と花火をする時、必ず最後にしたのが線香花火だった。線香花火の優しい輝きを見ると不思議と心が安らぐ感じがするのだ。

線香花火には四種類の燃え方がある。燃えはじめ、真ん中に赤い大きな丸い玉をつける「牡丹」。次に、一番激しく美しく燃える「松葉」。激しく燃えたあと、火花がしな垂れ、風に流される「柳」。そして最後の、菊の花びらが咲いては散ってを繰り返す様子の「ちり菊」だ。

この四種類の線香花火を見るには、慌てずじつくりと待たなければいけない。無理をしたり焦ったりすれば、すぐにポトッと落ちて消えてしまう。人生も同じように無理をしすぎたり、焦りすぎたりすれば失敗ばかりをしてしまう。焦らずじっくりと待って、自分の輝けるチャンスをつかんでいくのだ。

私も線香花火のように小さくても輝ける人生を送っていききたい。◆中野太秀

法のお話



一年度
竹村信彦

『合掌』

皆さんはどんな時に合掌をしますか？
ご飯を食べる時やお参りの時など、様々な
場面で合掌をする機会があるのではない
でしょうか。

この合掌というのは、インドが起源とな
っている作法です。日本では、仏教儀礼や
食事の前後だけでなく、感謝や謝罪の意を
表明する時などにも合掌をします。

私が修行をした福井県の永平寺でも、同
じように様々な場面で合掌をしました。お
手洗いや浴室へ出入りする時、食事の給仕
をうける時、修行僧同士がすれ違う時の挨拶
など、修行生活のほとんどの作法に合掌
を使います。

そのため、永平寺では合掌に対する非
常に細かい指導が行われます。「指が開か
ないようにして両手のひらをぴったりと
つける」「指先を鼻の高さにする」「合掌
した手を顔から拳一つ分はなす」など、
合掌をする際の注意事項はたくさんあり
ます。

しかし、はじめは緊張しながら行っ
ていたその合掌も、月日が経つにつれて次
第にいい加減になっていきました。たか
が合掌だろうと考えてしまい、誰も見て
いないところでは合掌の指が開き、指先
を鼻の高さよりも低くしてしまうように
なったのです。

ある日、そんないい加減な合掌をして
いた私を、先輩が次のように叱りました。

「いい加減な合掌をするんじゃない！自分
勝手な合掌をするんじゃない！その合掌
にお前のいい加減さがすべて出ているん
だぞ！」

その言葉を聞いたとき、それまでの自
分の合掌を反省しました。たかが合掌だ
ろうと考えていた自分。しかし、その簡

単な作法の中に、私の修行へのいい加減な
態度がすべて表れていたのです。
私はそれまで、坐禅を一生懸命すること
が修行なのだと考えていました。しかし、
先輩の言葉によって、坐禅ばかりが修行で
はないと気づくことができました。蔑ろに
なりがちな合掌をしっかり整えることも、
修行の一部なのだと分かったのです。

合掌の右手は仏様を、左手は自分自身を
表すといわれています。仏様と自分の間に
隙間ができないように、右手にぴったりと
左手を合わせる。仏様の生き方に、自分の
生き方を照らし合わせていく。そんな姿
が、この合掌に表れているのです。

修行中、忙しさのあまり余裕がなくなっ
てしまったとき。そんなときに、仏様と自
分との間に隙間ができないように、合掌を
しっかりと整えました。そして、仏様なら
どんな態度をとるだろうかと考えること
で、自分の心を落ち着けることができたの
です。

仏様の生き方に自分の生き方を照らし
合わせ、これからもきれいな合掌を心がけ
ていきたいものです。

いろんな仏様

『韋駄天』



韋駄天は、もとは古くからインドにあるバラモン教の神様で
したが、後にお寺を守るとされる仏教の守護神となりました。

その昔、捷疾鬼と呼ばれる鬼がお釈迦様の骨を奪って逃げ
た時、韋駄天がこれを追いかけて取り戻したという俗伝から、
「よく走る神」「盗難除けの神」として知られるようになりま
した。また、お釈迦様のために方々を駆け回り食材を集めたと
いう伝説もあり、足の速い神様として親しまれています。

禅寺では、主に厨房を司る神様として奉られています。そこ
には、食材を運んで欲しい、温かい料理を早く食卓へ運んで欲
しいといった願いが込められています。私も修行時代に、困っ
た時に韋駄天にお願いすると食材が送られてくるといった不
思議なご利益が実際にありました。皆様も食べ物に困ったら韋
駄天にお願いしてみるといいかもしれませんね！◆大澤香有



ひだまり

ご当地グルメ



愛知県より

『五平餅』



今回私がご紹介するのは「五平餅」です。団子型や棒型など
様々な形がありますが、私の住む地方ではわらじ型の五平餅が
主流です。

五平餅の名前の由来は神様にお供えする御幣(波状に折った
白紙を木のくしに挟んだもの)からきていると言われ、もともと
は田畑や山に実りをもたらす神様へお供えとして作られたもの
でした。そのお供えをお下がりとして頂くことから五平餅が生
まれたそうです。実は、秋田の有名な郷土料理「きりたんぼ」
も、山の神様へのお供えが起源と言われています。

五平餅はその土地土地で醤油やゴマ、くるみなど様々な味付
けがありますが、私のおすすりは何と言っても八丁味噌！お味
噌の甘辛さが、ほんのり焦げたお餅にピッタリです。どこかで
見かけた際には是非お試しになって下さい！◆畔柳公潤